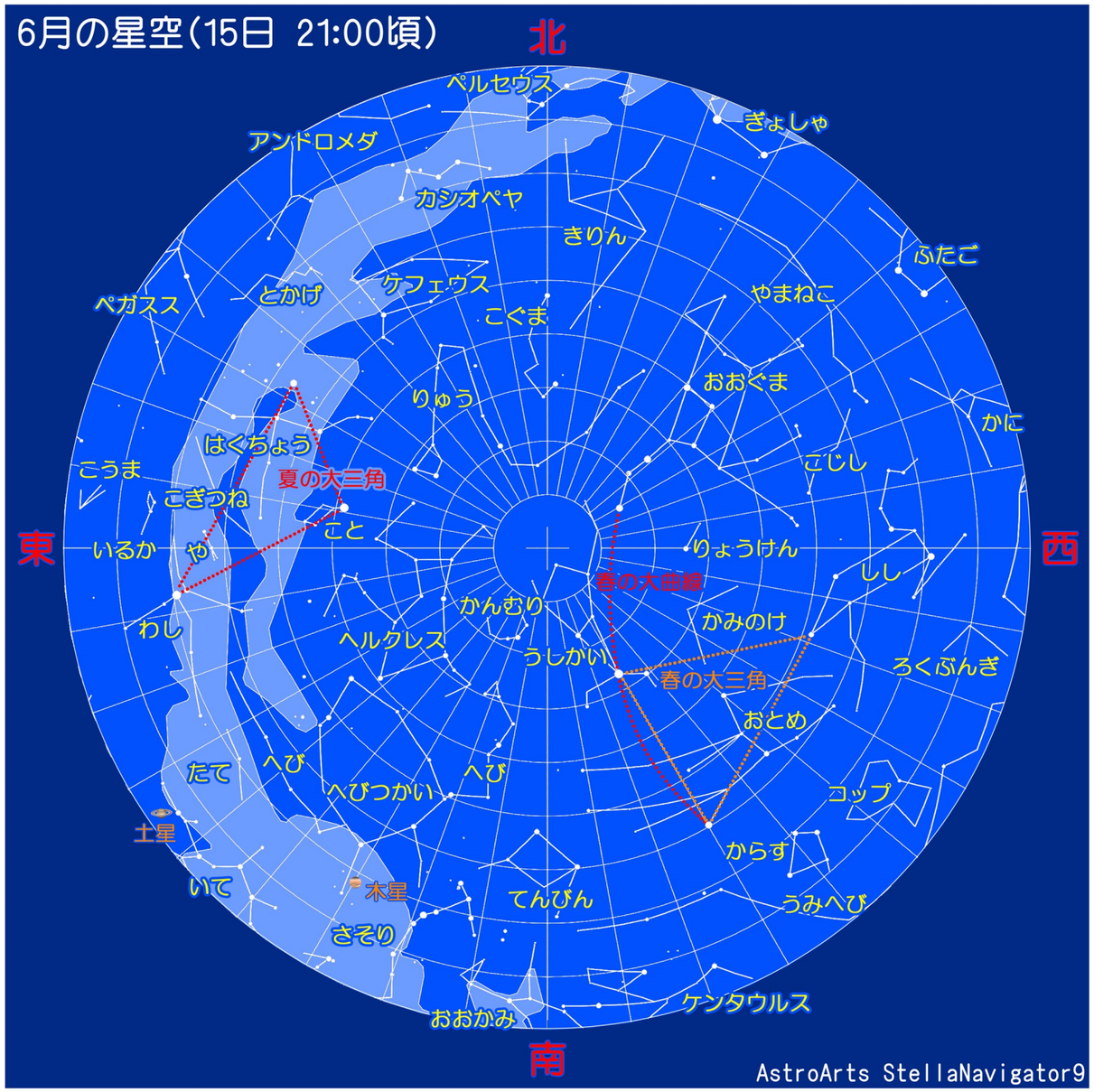
銀河の森天文台
2019年6月みどころ天体情報



今月のイチオシ！

☆木星

太陽系最大の惑星である木星は、表面の縞模様が特徴的です。この縞模様はアンモニアの雲によるものと考えられています。また大赤斑と呼ばれる赤い楕円形の模様は巨大な台風のようなものと考えられており、発見されてから300年以上も木星の表面に存在し続けています。今年は大赤斑の赤味が強くなっていることに注目です。

太陽からの距離：約7億7800万km

木 星

月

		出	没
3日	●新月	03:41	18:43
10日	◐上弦	10:53	--:--
17日	○満月	18:55	03:36
25日	◑下弦	23:49	11:04

天文台から月を見ることができるのは5～18日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

M5（球状星団）

へび座（頭）に位置する、北天を代表する明るい球状星団です。周囲に明るい星が無いので少々見つけにくいかもしれません。同じく北天を代表する球状星団のM13やM3と見比べるのも面白いでしょう。

距離：約2万4500光年

アルビレオ（恒星）

はくちょう座のくちばしに位置し、黄色と青色の色の対比がとても美しい二重星です。

宮沢賢治はこの星を、トパーズとサファイヤと表現したほどです。

距離：約434光年

M13（球状星団）

北天で最も明るい球状星団で、位置さえ知っていれば双眼鏡でも簡単に見つけることができます。望遠鏡では、中心部まで星が密集した見事な姿を観察することができます。

距離：約2万5100光年

M51（銀河）

銀河の渦巻の腕の先に小さな銀河（NGC5195）を伴っていることから、子持ち銀河という愛称で呼ばれています。月明りのない夜には2つの銀河が実際につながている様子を見ることができます。

距離：約2100万光年

ちょっとマニア

・へび座

へび座は、88星座の中で唯一、ふたつに分かれている星座です。へびつかい座が抱えているへびがへび座で、かつてはへびつかい座の一部でした。西側が頭で東側がしっぽになっています。

M57（惑星状星雲）

リング状星雲、ドーナツ星雲などと呼ばれるように環の形に見える星雲です。

これは、恒星が一生を終えようとするときに放出したガスが光っているものです。

距離：約2600光年

ラスアルゲティ（重星）

ヘルクレス座の頭に位置する二重星です。

赤色の3.5等星と黄色の5.3等星のペアですが、赤色の主星により、伴星は緑や青色に感じられることがあります。

距離：約359光年

その他おすすめ

- M3（球状星団）
- M12（球状星団）
- M92（球状星団）
- アルクトゥールス（恒星）
- コルカロリ（重星）
- ダブルダブルスター（重星）

6・7月の銀河の森天文台カレンダー

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

開館時間

14:00～22:30
（4月～9月）

13:00～21:30
（10月～3月）

休館日